

ま ち の 話 題

豊岡

新市誕生祭 みんなで感DO!

つくろう絆!
つくろう未来!



▲但馬ちりめんに手形を押す子供たち

6月5日、豊岡市総合体育館前広場で、新市の誕生を祝うとともに災害を吹き飛ばす元気な市にしようとし、新市誕生祭「みんなで感DO!」(豊岡青年会議所主催)が行われました。出石名物の皿そばなどが出店されたほか、但馬ちりめんに手形を押し、新市誕生の記念や災害を吹き飛ばすメッセージを書くハンドスタンプ、新市の地図を組み合わせるジャンボパズル遊びなどが行われました。また、ステージでは、ゴスペルライブや市民グループによる歌やパフォーマンスなどが行われ、最後は、みんなで「翼をください」を合唱し、願い事などを書いたエコ紙風船を空高く飛ばしました。

城崎

鼻かけ地蔵尊祭

願い事はひとつだけ!

6月5日、城崎町楽々浦地区で、「鼻かけ地蔵尊祭」が開催されました。昭和52年から始まったこの祭りは、毎年6月の第1日曜日に行われ、今年が29回目となります。鼻かけ地蔵は、テレビ「日本昔話」でも紹介されました。楽々浦湾の底から引き上げられ、大タモの木の元にお祭りされた地蔵さんは、そのお札にと鼻から米を出しましたが、一人の欲張りおじいさんが、鼻の穴を大きくすれば、もっとたくさんのお米が出ると思い、地蔵さんの鼻の穴をのみで削り大きくしました。それからは、地蔵さんの鼻の穴からは、一粒のお米も出なくなり、今は欲張らずに一つだけ願いを聞いてもらえる地蔵さんとして信仰されています。



▲大護摩を焚いて供養する参拝者

竹野

おたまじゃくし取り

早く大きくなってね!!



▲おたまじゃくし取りをする園児

6月7日、森本へき地保育園の園児(3〜5歳児、20人)が、「おたまじゃくし取り」に出かけました。帽子に長靴、手にはバケツと網を持ち、先生と一緒に保育園近くの田んぼへ。「先生、とれたあ」、「足が生えとる」と泥んこになりながら奮闘する園児たちの歓声が響いていました。おたまじゃくしは保育園に持ち帰り、タライの中で育てられます。園児たちは、おたまじゃくしが成長してカエルになり、自然に帰っていくのを観察し、見守ります。



▲過去最高の人出となり、ドームは大賑わい

日高 フリーマで買い物 ストレス発散

但馬ドームフェスティバル

北近畿最大のフリーマーケット「但馬ドームフェスティバル」が5月29日に開催されました。このイベントは、但馬ドームの利用促進を図るため平成11年から毎年実施されていますが、今回は約3万6千人が訪れ、過去最高の入り込みとなりました。

雑貨や衣類など約130もの店がグラウンド内いっぱい並び、家族や友達と一緒に訪れた人たちは、出店者との会話を楽しみながら、品定めをしていました。

また、特設ステージではパフォーマンス大会が実施され、出演者はダンスやバンドなど日ごろの練習の成果を元気に発表していました。

出石

片間ふれあい農園開園
さわやかな香り漂う
ラベンダー



▲薄紫色のラベンダー畑をさわやかな気分で歩く子どもたち

6月5日、片間地区のふれあい農園が7年目の開園を迎えました。（入園料200円）この農園は、約1.5ヘクタールに約3,000株のラベンダー、約700本のブルーベリー、約100本のユスラウメや約100本の小果樹などが植えられています。

園内では、訪れた人が薄紫色のさわやかな香りが漂うラベンダーの摘み取りやブルーベリーのもぎ取りを楽しく体験していました。6月26日には、もちつき体験などがある「ラベンダーまつり」、7月3日の閉園日には、「復興感謝祭」として、ラベンダーポット苗が先着100人にプレゼントされます。

但東 鮮やかに感謝の大輪

奥赤あじさい祭り

6月18日、19日の2日間、奥赤地区であじさい祭りが行われました。

今年で4年目となる祭りには、家族連れなどが訪れ、青、赤、白と約1千株の色鮮やかなあじさいを眺めて楽しんでいました。

また、苗木の販売や新茶などの振る舞いが行われ、多くの人で賑わっていました。祭り実行委員会代表の小西護さんは、「台風23号のつめあとを見ていただき、多くの方から励みの言葉をいただきました。あじさいを通してお礼ができればと思います。復興に向けて頑張ります」と話していました。あじさいは7月上旬まで見ごろということです。



▲鮮やかなあじさいを目の前に楽しむ親子連れ（写真右 小西護さん）